

草丈伸長性、小球開花性が優れるテッポウユリ新品種「スカイホルン」の特性

テッポウユリ新品種「スカイホルン」は、球根増殖が容易で、種苗コストの削減や生産性向上が可能

背景・目的

- ・テッポウユリは本県の特産花き品目で、沖永良部の「えらぶゆり」は県のブランド品目に指定
- ・球根産地の沖永良部では高齢化や販売価格の低迷などで、球根生産量も減少傾向(最盛期の1/10以下)
- ・テッポウユリの切り花及び球根の生産コスト削減が期待できる新品種の育成が必要

成果の内容



「スカイホルン」の特徴(主力品種「ひのもと」との比較)

- 草丈伸長性に優れる
- 花はやや上向きで、2次花(孫花)の発生が少ない
- ブラスティングの発生が少ない
- 立ち葉で草姿が優れ、葉数が多く茎が硬い
- 小球開花性に優れる(小さい球根が利用可能)
- 促成栽培の到花日数は「ひのもと」並
- 球根の増殖が良好

3月出し栽培における生育開花特性

品種	収穫始期 (月/日)	収穫盛期 (月/日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	1次花 (輪)	2次花 (輪)
スカイホルン	3/15	3/20	128	56	5.4	0.4
クリスタルホルン	3/12	3/18	116	67	3.0	0.0
ピュアホルン	3/30	4/5	111	50	2.6	0.0
ひのもと	3/24	3/31	140	64	4.1	1.3

注) 球根サイズ: 2S球, 温湯処理46°C60分, 球根冷蔵: ポリ簡易冷蔵8°C6週間
定植日: 平成28年11月7日, 旧花き部ガラスハウス最低8°C

導入メリット

3月開花



草丈の確保が容易

5月開花



上向き咲きで草姿良好

生産コスト削減・需要獲得

期待される効果

テッポウユリの切り花及び球根の生産コスト削減, 生産量増加

鹿児島県農業開発総合センター果樹・花き部花き研究室

普及対象・範囲

県内テッポウユリ切り花・球根生産農家